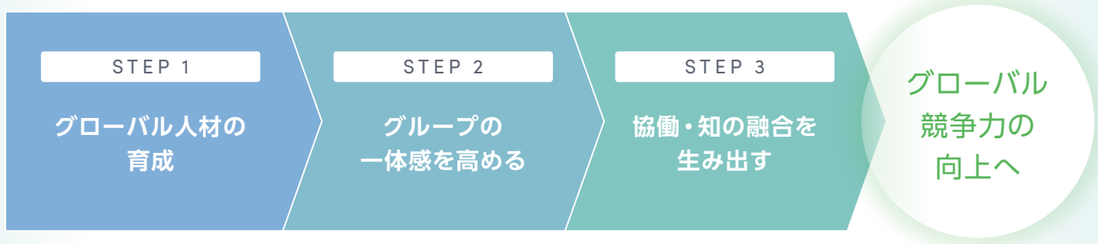
TOPICS | 1

グローバル成長を見据えた人的資本の増強へ

「10年プラン2035」の戦略指針である“Global Inclusion”の実現に向け、
国や組織を越えて人材・知識・技術をつなぐ施策を展開し、国際競争力の向上に努めています。

グローバル市場で成長を続けるためには、一人一人の能力向上に加え、多様な人材が共通の価値観のもとで協働し、国や組織の枠を越えて知識や技術を結びつける力が不可欠です。

当社は、「10年プラン2035」の戦略指針“Global Inclusion”の実現を支える取り組みとして、グローバル研修、「10年プラン2035」の浸透、拠点を越えたナレッジ共有を推進しています。これらの施策を通じて、グループ全体のシナジーを創出し、グローバル競争力の向上と持続的な成長につなげていきます。



STEP 1　グローバル人材の育成

グローバル研修を継続的に実施

当社のグローバル研修は、国・部門・事業部を越えた人材交流を通じたシナジーの創出と、将来の経営マネジメント人材の育成を目的とする中長期的な戦略施策です。2023年度から毎年開催しており、現在は「10年プラン2035」の戦略指針である“Global Inclusion”の実現を支える取り組みとして位置づけています。

約1年間の研修では、現場思考から経営思考へのマインドチェンジを促すとともに、経営に必要な基礎知識を習得します。グループワークやオンラインでの協働を通じて、国境を越えた実践的な連携力を養い、最終成果報告会では社長をはじめとする経営層とともに、経営視点での議論を深めています。

対象者は、国内外の多様なメンバーで構成し、国籍や所属部門のバランスを考慮してグループを編成しています。2025年度までは事業部社員を対象としていましたが、2026年度からは本部社員も含め、全社員へと対象を拡大しました。

研修の成果は、拠点を越えた連携の活性化として表れています。同一顧客に対する拠点横断での受注獲得など、具体的な事業成果につながっている他、研修修了後も拠点間で相談・協働する関係が継続しています。さらに、研修で生まれた提案の一部は社内施策として導入され、グループ横断組織の立ち上げや、グローバル購買・人事データベースの検討など、組織能力の強化にも波及しています。



今後は、新たなパーパス・ビジョン・バリューズへの理解を研修テーマに加え、グループ全体で共通の価値観を共有できる人材の育成を進めていきます。将来的には、修了者が国内外、事業部、本部の枠を越えて要職を担い、「一つの大きな大気社」として機動的に価値を提供していくことを目指します。

参加者の声



Nanda Kumar Reddy
Nicomac Taikisha Clean Rooms Private Limited
Panel Engineering General Manager

研修を通じて、国や文化の違いを越えた率直な意見交換ができ、当社グループのビジョンを自分の業務と結びつけて捉え直すことができました。グローバルに協働する上で求められる役割と責任を改めて認識し、大きな学びとなりました。研修の修了はゴールではなく、コミットメントの始まりだと感じています。

STEP 2　グループの一体感を高める

国内外の拠点で経営層との対話を継続

「10年プラン2035」の発表後、約半年間にわたって社長自ら国内外の各拠点を訪問し、策定の背景や目指す方向性について直接対話を行うキャラバンを実施しました。各拠点では、地域ごとの長期計画も共有しながら、現場の視点を踏まえた意見交換を実施し、グループ全体が同じ方向を向いて取り組むための組織基盤を強化しました。



こうした経営層と拠点の継続的な対話を重ねることで、当社グループは各地域の強みや課題への相互理解を深めるとともに、グループ全体の一体感を高めています。また、「10年プラン2035」を社員一人一人が自分ごととして捉え、実現に向けた挑戦意欲を高める機会にもなっています。

企画担当者の声



茅野 和博
経営企画本部　副本部長

キャラバンでは、各拠点が10年プランへの注力点や期待、課題を持ち寄り、グループシナジーの創出、グローバル展開、人材育成、環境対応、新規事業、投資計画など幅広いテーマで意見を交わしました。経営層との直接対話によって理解が深まり、グループ全体の一体感と挑戦に向けた士気の向上につながったと受け止めています。

STEP 3　協働・知の融合を生み出す

ASEANでの技術交流を通じてナレッジを共有

海外の大規模データセンタープロジェクトでは、当社のMEP（機械・電気・配管）分野における高度な技術力や、国際的な安全・品質基準に適合したプロジェクト遂行力など、当社グループの総合力が発揮されています。

当社は2026年6月、同プロジェクトが進行しているタイ・ラヨーンにおいて、ASEAN各国の拠点を対象とした技術交流を実施しました。日本を含む7か国の参加メンバーは、現場視察に加え、提案・設計・調達・施工・品質管理・試験・コミッショニングに至るまで、プロジェクト全体に関わる実務や知見を共有しました。データセンター分野における遂行力の標準化・高度化を図るとともに、拠点間の協働体制をさらに強化しました。



参加者の声



Pham Thanh Binh
Taikisha Vietnam Engineering Inc.　**取締役社長**

大規模プロジェクトの現場で、環境システム部門と塗装システム部門が緊密に連携し、高い品質を実現しているプロセスを直接確認できたことは、大きな学びとなりました。今回得た知見を通じて技術・ノウハウの蓄積を進め、ベトナムにおけるプロジェクト対応力や人材育成の強化につなげていきます。